

## ⑫ 公開特許公報(A) 平4-16639

⑤ Int. Cl.<sup>5</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成4年(1992)1月21日

E 04 B 1/348

L 7121-2E

7/16

C 6951-2E

E 04 D 13/035

Z 7540-2E

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全6頁)

⑭ 発明の名称 屋上用可動屋根

⑯ 特 願 平2-120563

⑰ 出 願 平2(1990)5月9日

⑱ 発 明 者 小 野 奈 保 美 東京都杉並区高井戸東2丁目4番5号 ミサワホーム株式会社内

⑲ 出 願 人 ミサワホーム株式会社 東京都杉並区高井戸東2丁目4番5号

⑳ 代 理 人 弁理士 木下 実三 外2名

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

屋 上 用 可 動 屋 根

天時には雨に濡れてしまい利用できなかった。

このため、雨天時の洗濯物干しなどは屋上に設けられたペントハウスを利用していた。

## 2. 特許請求の範囲

(1) 屋上を備える建物に収納可能に構成され、かつ建物の外部に移動されて屋上の少なくとも一部を被覆可能に構成されたことを特徴とする屋上用可動屋根。

〔発明が解決しようとする課題〕

しかしながら、ペントハウスの面積は建築基準法などで制限されていることが多く、雨天時に洗濯物干しなどで利用するには空間が小さいという問題があった。

## 3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、屋上用可動屋根に係り、特に歩行可能な屋上およびペントハウスを備える建物に利用できる。

また、雨天時に十分に利用できるようにペントハウスの面積を大きくすると、逆に上方が解放された屋上の面積が小さくなり、晴天時に屋上で洗濯物干しなどを行えなくなるという問題がある。

本発明の目的は、ペントハウス以外の屋上の少なくとも一部を晴天時だけでなく雨天時にも利用することができるようにする屋上用可動屋根を提供することにある。

〔背景技術〕

従来より、歩行可能な屋上は、日光浴や洗濯物干しなどの様々な用途で利用されているが、上方に屋根などが無い解放された空間であるため、雨

〔課題を解決するための手段〕

本発明の屋上用可動屋根は、屋上を備える建物

に収納可能に、かつ建物の外部に移動されて屋上の少なくとも一部を被覆可能に構成されたことを特徴とする。

ここで、前記建物はペントハウスを含むものであり、前記屋上用可動屋根はペントハウスの屋根部や建物の勾配屋根に収納可能に構成されていることが好ましい。

また、屋上用可動屋根としては、通常の屋根材で形成されたものや、ガラスサッシで形成されたものなどが利用でき、屋上の少なくとも一部の上に配置されて雨水により屋上が濡れないように被覆できるものであればよい。

#### 〔作用〕

このような本発明においては、建物の外部に移動された屋上用可動屋根により屋上の少なくとも一部が被覆されるため、この被覆された部分は雨天時にも利用可能となる。

また、晴天時には、屋上用可動屋根を建物に収納することで屋上用可動屋根で被覆されていた部

分は他の屋上と同様に上方が解放された空間として利用可能となり、これらにより前記目的が達成される。

#### 〔実施例〕

以下、本発明の一実施例を図面に基づいて説明する。

第1図および第2図には、本発明が適用されたユニット住宅1が示されている。ユニット住宅1は、複数の1階用ユニット2、2階用ユニット3および屋根ユニット4を備えている。

屋根ユニット4は、勾配屋根5を備える側ユニット6と、歩行可能な屋上7Aを構成する中ユニット7とから構成されている。この屋根ユニット4の中央部には、ペントハウスユニット8が配置されている。また、屋根ユニット4の屋上部分の上方は、棟梁9および登梁10のみが設けられて解放された状態とされている。

ペントハウスユニット8は、勾配屋根5に略連続した屋根部11と、屋上7Aに出入りするドア

12Aを備える壁部12とで構成される。屋根部11の各傾斜面は、ユニット8のフレームに固定されたガラスサッシ13によりそれぞれ形成されている。

この各ガラスサッシ13のペントハウス内側には、第2図にも示すように、棟梁9に沿った方向の長さがガラスサッシ13の半分とされ、棟梁9および勾配屋根5の上端に設けられたガイドレール14に沿ってスライド移動可能とされた2枚の可動屋根15がそれぞれ配置されている。

可動屋根15は、ガラスサッシ16で構成され、ペントハウスユニット8の屋根部11から各妻側に向かってスライド移動可能に構成されている。また、可動屋根15は、フックや出沒可能なピン等の適宜な係止手段により屋根部11内に収納された状態および屋根部11から引き出された状態で係止可能とされている。

このような構成の本実施例においては、第2図に示すように、可動屋根15を屋根部11の外部に引き出すと、屋上7Aの一部が可動屋根15に

より覆われる。このため、雨天時においても屋上7Aの可動屋根15に被覆された部分は、洗濯物干し等に利用可能となる。

また、第1図に示すように、可動屋根15を屋根部11内に収納すると、可動屋根15で被覆されていた屋上7Aは上方が解放された空間として利用される。

このような本実施例によれば、次のような効果がある。

すなわち、ペントハウスユニット8の屋根部11に収納可能でかつ屋根部11の外部に引き出されて屋上7Aの一部を覆う可動屋根15を設けたので、屋上7Aの一部は、他の屋上7Aと同様に上方が解放された状態で利用できるとともに、可動屋根15で被覆された状態でも利用できる。このため、ペントハウスユニット8以外の屋上7Aの一部を雨天時にも使用することができる。

また、雨天時の利用のためにペントハウスの面積を大きくする必要がなく、かつ可動屋根15をペントハウスユニット8の屋根部11内に収納で

きるので、晴天時に洗濯物干しなどに利用できる屋上7Aの面積が減少することがなく、屋上7Aを有効に利用することができる。

さらに、可動屋根15は屋根部11内に収納できるので、工場で可動屋根15をベントハウスユニット8に組み込むことができ、かつベントハウスユニット8と一体で輸送、設置することができるので可動屋根15の取付作業を容易に行うことができる。

また、可動屋根15はガラスサッシ16で構成されているため、ガラスサッシ13で構成された屋根部11の内側に収納されても、その眺望を損なうことがない。

なお、本発明は前記実施例の構成等に限らず、本発明の目的を達成できる範囲の変形は本発明に含まれるものである。

例えば、前記実施例では、ベントハウスユニット8の屋根部11および可動屋根15をそれぞれガラスサッシ13、16で構成していたが、第3図および第4図に示すように、通常の屋根材で構

成してもよい。また、屋根部11および可動屋根15のいずれか一方のみを通常の屋根材で構成してもよい。

また、前記実施例では、可動屋根15を屋根部11の半分の長さに形成したが、第5図に示すように、各可動屋根15を屋根材11と同じ長さに形成してもよい。この場合には、可動屋根15を収納した状態では、屋根材11と2つの可動屋根15との3重構造となるが、可動屋根15を引き出した状態では前記実施例に比べて可動屋根15で被覆できる範囲が広がるため、雨天時に利用できる空間をさらに大きくできるという利点がある。

さらに、前記実施例では、可動屋根15を屋根部11の内側に収納していたが、第6図に示すように可動屋根15を屋根部11の外側に配置してもよい。すなわち、本発明において可動屋根15を収納するとは、屋上7Aを被覆しない位置に可動屋根15を移動することであり、屋根部11の内外の何れかに収納するかは実施にあたって適宜設定すればよい。但し、屋根部11の外側に可動

屋根15を配置する場合には、ユニット住宅1の設置後でもガイドレール等を取付けることで容易に配置することができ、よって既存の建物にも本発明を容易に適用できるという利点がある。

また、前記実施例では、可動屋根15をベントハウスユニット8の屋根部11に収納していたが、側ユニット6の勾配屋根5部分に収納し、登梁10に沿って斜め上方に引き上げて屋上7Aを被覆してもよく、可動屋根15の収納場所は実施にあたって適宜設定すればよい。

また、前記実施例では、2枚の可動屋根15を屋根部11から両妻方向に向かってそれぞれ移動させていたが、1枚の可動屋根15のみを設けて片方向のみに移動させてもよい。

さらに、可動屋根15の移動方法としては、棟梁9、ガイドレール14、登梁10などのレールに沿って移動させるものに限らず、可動部材15を片持ち状態で支持しながら移動させるなどの他の方法で移動させてもよい。

また、前記実施例では、勾配屋根5に連続する

屋根部11を備えるベントハウスユニット8に可動屋根15を収納していたが、陸屋根上に独立して配置されるベントハウスに可動屋根15を収納してもよい。この際、可動屋根15は陸屋根と同様に略水平に配置移動されるものでもよい。

さらに、本発明はユニット住宅に限らず、鉄骨構造などの他の工法の建物などにも広範に利用することができる。

#### 〔発明の効果〕

このような本発明によれば、ベントハウス以外の屋上の少なくとも一部を晴天時だけでなく雨天時にも利用することができるという効果がある。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例の可動屋根が収納された状態を示す斜視図、第2図は前記実施例の可動屋根が引き出された状態を示す斜視図、第3図および第4図はそれぞれ本発明の可動屋根の変形例を示す概略斜視図、第5図および第6図はそれ

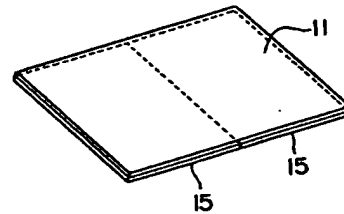
これ本発明の他の変形例を示す斜視図である。

4…屋根ユニット、5…勾配屋根、7A…屋上、  
8…ベントハウスユニット、11…屋根部、13、  
16…ガラスサッシ、15…可動屋根。

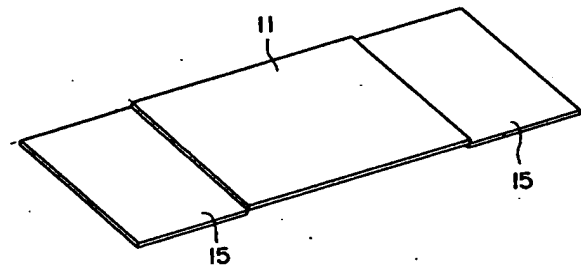
出願人 ミサワホーム株式会社

代理人 弁理士 木下 實三 (ほか2名)

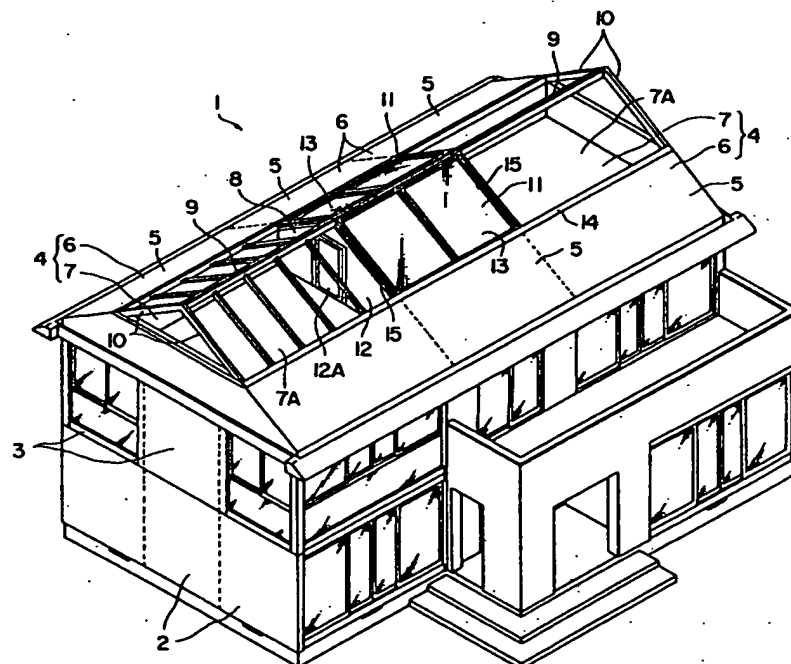
第3図



第4図

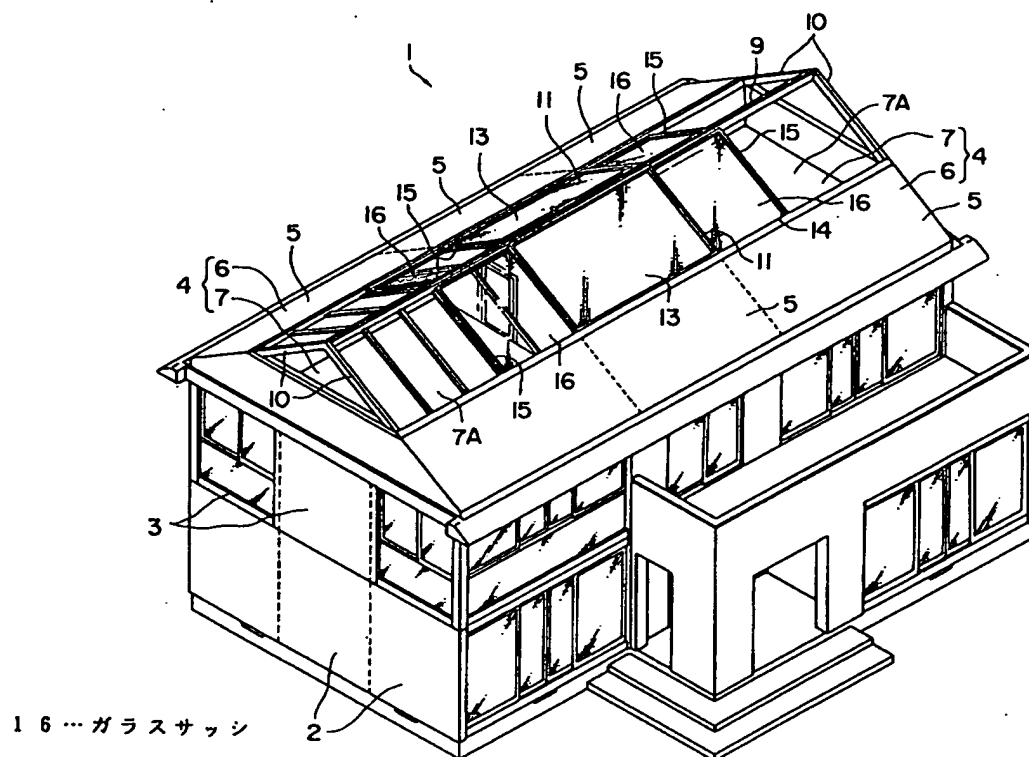


第1図

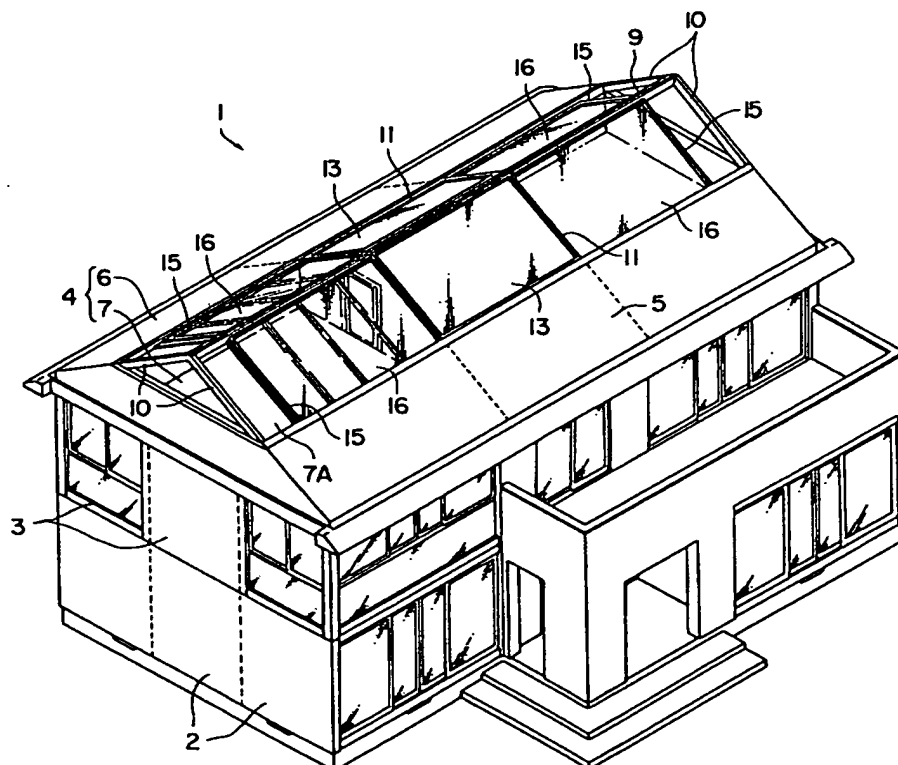


4…屋根ユニット  
5…勾配屋根  
7A…屋上  
8…ベントハウスユニット  
11…屋根部  
13…ガラスサッシ  
15…可動屋根

第2図



第5図



第 8 図

